

問 そのほかの公園施設の復旧状況について

答 子供が遊ぶところを早く開放して欲しいという要望もあるが、公園の中には災害ごみの仮置き場になつていたところもあり、ごみを撤去しても、ガラス片などが土の中に埋まつていて危険な状況である。利用できるようにするためには、土の剥ぎ取り工事が必要であるが、環境省の補助対象となるため、災害廃棄物の担当部署と現在調整中である。

また、五郎の畑の前河川敷広場については、10月に菜の花の種まきを行い、3月のイベントで利用してもらえるように追加の補正予算を予定している。

◆水道事業会計について

説明 平成30年7月豪雨で被災した、柴、本村、村島、菅田第3、小倉の5水源と、春賀、池田の2加圧施設の応急復旧工事の工事費として、7,970万円を計上しているもの。

問 今回は応急に修理したとのことだが、今後の施設整備計画に

ついてはどうなっているのか。

答 柴の水源地は、浄水場の中に浸水したため、ポンプや操作盤が全て壊れたが、応急的な工事として、陸上ポンプのモーター部分を外し、オーバーホールして付け替えて運転している。今後、本復旧として施設を更新する予定である。

菅田の本村、村島、菅田第3の3水源は、堤防整備に伴う移転事業を進めているところで、平成16年の災害の水位を元に計画していたが、今回の水害を受け、計画を見直すこととし、計画されている堤防の高さに余裕高を30センチ持たせた上に、施設の中で70センチかさ上げすることになっている。これにより、今回の水害規模であれば耐えられる高さになる。

問 当初は復旧が未定だと聞いて市民の皆さんも不安であった。早期の復旧ができて職員の皆さんには大変感謝しているが、今後の復旧計画は、水害だけでなく地震の対応も考慮したものとなるのか。

答 菅田の3水源は耐震構造になっている。また、水道管の老朽化に

よる更新も順次進めているが、全て耐震管で施工しており、範囲が広いため全てはすぐにできないが、今後行う工事は全て耐震構造で施工することとしている。

また、浸水した5水源は、全て堤防がなく低いところで、柴の水源地は暫定堤防、菅田の水源地は無堤地区で、今回、五郎の水源地は、完成堤防であつたおかげで唯一浸水しなかったため、肱北、肱南、平野地区は救われた。今回、激特事業の採択により、堤防が上がるので、それにより水源地が守られることを期待している。

意見 今回はスピード感を持ってやってもらったが、水が出ないとなれば精神的にも消耗してしまう。今後いろいろと想定し、最重要事項として進めていただきたい。

肱川流域治水対策特別委員会

委員長 村上 松平

◆陳情第2号

今回の洪水と肱川の治水計画の再検討を求める陳情について

説明 平成30年7月豪雨による被害を受け、肱川上流における宇和川放水路の検討、肱川中下流での河床掘削の実施、ダム操作の柔軟な対応、肱川水系河川整備計画の「河道内掘削は行わず」の削除、複数の大学教授など学識経験者による再検証を要請しているもの。

意見1 国が激甚災害に指定し、今回の被害を繰り返さないようなソフト、ハード面での国土交通省の予算措置も発表されている。野村ダム出水期の操作規則の見直しも言われており、堆積土砂の取り除き、暫定堤防のかさ上げの実施や、既存堤防が低いところのかさ上げにも地域説明会が行われるなど、さまざまな取り組みをされようとしているところである。これからしっかりとした検証が必要であると思うので、継続審査にすべき。

意見2 今後、委員会で現地調査、研修会等を実施することとしていることから、この陳情に対しても委員会として十分に検討を行うため、今回は継続審査にすべき。

審査結果 継続審査